

日本体育学会 第 65 回大会 日本体育学会・全国大学体育連合 共催シンポジウム

**日 時** : 8 月 26 日 (火) 13:30~15:30

**会 場** : アイーナホール

## **テーマ** : 大学体育教員の資質向上の新しい取り組み

### **司会・コーディネーター** :

阿江 美恵子 (東京女子体育大学, 日本体育学会副会長)

重城 哲 (日本大学, 全国大学体育連合渉外部長)

**演 者** : 深澤 浩洋 (筑波大学, 本学会大学体育問題特別委員会委員)

「体育・スポーツ学検定」(仮称) の創設

小林 勝法 (文教大学, 全国大学体育連合専務理事)

プレ FD と教養体育インターンシップ、キャリア形成支援の取り組み

福永 哲夫 (鹿屋体育大学長)

筑波大学・鹿屋体育大学 高度大学体育指導者養成大学院共同学位  
プログラム

### <趣旨>

大学教育のユニバーサル化とグローバル化が進展し、学位の国際通用性や留学生獲得、情報公開などへの関心が高まっている。日本でも「教育の質保証」に取り組んでいるが、その一環として、大学教員の資質・能力を維持・向上させることは重要視されており、その手段としての FD 活動は、2008 年から大学設置基準により、その実施が義務化されている。さらに、中央教育審議会答申(2008)・(2012)や大学院教育振興施策要綱(2011)では、「大学院における大学教員養成機能(プレ FD)の強化」や「体系的 FD」への取り組みが提唱されており、実際に国立教育政策研究所では、「FD マップ」(2009)や「新任教員研修のための基準枠組」(2010)を作成しているし、全国私立大学 FD 連携フォーラムはビデオ・オン・デマンドによる「実践的 FD プログラム」(2011)を開始している。

日本体育学会では 2013 年に大学体育問題特別委員会を設置し、大学体育の質向上についての検討とその実現に向けての取り組みを始めている。全国大学体育連合では、指導者研修会にプレ FD やキャリア形成のプログラムを取り入れている。筑波大学と鹿屋体育大学は大学体育指導者養成プログラムの開設準備をしている。これらの「大学体育教員の資質向上の新しい取り組み」について、演者に報告していただき、学会員から広く意見を求め、議論したいと思う。

なお、発表資料は印刷による配布はしないが、全国大学体育連合ホームページ (<http://daitairen.or.jp/>) に掲載するので、各自でご用意いただきたい。

## 「体育・スポーツ学検定」(仮称)の創設

日本体育学会大学体育問題特別委員会 委員 深澤浩洋 (筑波大学)

全国体育系大学学長・学部長会に設置された教育の質保証委員会が平成23年にまとめた「体育・スポーツ学分野における教育の質保証―参照基準と教育関連調査結果―」(以下、「参照基準」)の実質化を図ることを目的に、体育系大学・学部および教育学部保健体育科・専修などを卒業した学生の質を確認するための検定制度創設の検討を進めている。この検定は、大学4年間の学びにおいて修得が望まれる体育、スポーツ、健康に関する知識や能力を確認することを目的に4年次で実施することを構想している。(また、体育系や教育系以外の学部から大学院に進学する学生などに対し、体育・スポーツ学に関してどのようなことを学ぶ必要があるかを知る機会を提供することにもなると考えている。)

現段階では、各大学に共通する内容と各職域(体育教員、スポーツコーチ、トレーナー、クラブマネージャーなど)に応じた選択的な内容のそれぞれについて精査し、出題形式を検討することを課題として進めている。その手がかりとなるのが上述の「参照基準」である。

この制度の運用に関しては、実施主体・組織、実施体制、経費の負担、本検定の活用方法などに関する検討も必要であると認識している。また、既存の検定・講習制度とのすみ分けやそれらとの整合性を図ることも検討課題となってくる。

本発表はその中間報告となる予定である。体育・スポーツ・健康関連分野が社会に果たすべき貢献やこの分野における有為な人材の確保・輩出という観点から、また現実的な側面から、ご意見やご提案、アイデアなどを会員諸氏より賜うことができれば幸いである。

## プレFDと教養体育インターンシップ、キャリア形成支援の取り組み

全国大学体育連合 専務理事 小林 勝法（文教大学）

従来、大学体育教員になるものは、体育学部か教育学部保健体育専修を卒業し、体育系の大学院を修了したものがほとんどであった。したがって、体育学と教育学に関する知識を持ち、教育実習を経験していた。しかし、近年は体育系学部を卒業していない大学院生が約2割、保健体育の教員免許状を取得していない者が4割にのぼり、新任教員も同様である。そこで、大学体育においても他の専門と同じように、プレFD（大学教員準備教育）や新任教員向けのFDが必要になってきた。

本学会は、大学院生向けのプログラムとして、2012年から年次大会において院生セミナーを開催している。2012年度は筆者が担当し、「大学体育の教員はどのような人材が求められているか」と題して講演した。そして、2013年に設置された大学体育問題特別委員会では、体育大学の大学院生が他大学で研修する教養体育インターンシップについて検討しており、2014年春にはその試行を行った。

筆者は、プレFDのeラーニング教材を作成し、公開しており、これをもとに大学教員就職セミナーを開催した。新任教員向けにもeラーニング教材を作成し、公開している。これらの取り組みを参考にして、各大学でもプレFDに取り組むことを期待している。なお、全国大学体育連合は、大学体育指導者養成研修会に大学院生を受け入れており、大学体育研修精励賞を受賞した院生も現れている。

一般の勤労者の場合には、職能に関する資格試験があったり、職階ごとに研修会が開かれたりなど、キャリア形成を支援する仕組みがあるが、大学教員の場合は個人に委ねられ、自己責任となっている。教育と研究だけでなく、管理運営や社会貢献などと業務も広がり、年齢や職階によって期待される責務も変化する。長い教員人生の中では、病気や中年クライシスなどのような危機も訪れる。これまでのキャリアを振り返り、今後の展望を持ち、自分の強みを活かした戦略を立てることは重要である。そこで、キャリア形成に関するワークシートを作成し、全国大学体育連合の研修会でワークショップを開催した。従来の研修会は実技研修が中心であり、どちらかというと若手教員向けであった。今後は中堅やベテランなども対象にして、ライフコースに合わせたキャリア形成研修にも取り組むことを期待している。

## 筑波大学・鹿屋体育大学 高度大学体育指導者養成大学院共同学位プログラム

鹿屋体育大学 学長 福永 哲夫 (鹿屋体育大学)

### 大学教員には博士号が必要

大学体育の充実のためには、大学教員を輩出する博士課程における人材養成を、従来の自然・人文・社会科学領域の手法による研究に加えて、体育スポーツ実践等から得られる実践知を対象とした実践的研究が行える能力を養成できるプログラム作りが必要である。その為に、鹿屋体育大学と筑波大学とが共同で大学院共同学位プログラムを設立した。この学位プログラムにより、現状の博士号習得率の低い実践系体育教員の博士号習得率を高めるとともに、国内外の体育スポーツ科学研究の基盤を向上させることが出来ると考えられる。

### これからの体育・スポーツ科学領域に求められもの

そこで養成される人材として、大学体育・スポーツ教育に関する幅広い見識と体育・スポーツ科学に関する最新の知識、効果的なコーチング技能を兼ね備えた高度大学体育指導者が考えられる。その為に、3年間にわたる多彩な体育スポーツ実技指導力および実践的研究活動に関するコースワークを設定し、大学体育等の高度な実践的指導者にふさわしい専門性、国際性、実践性を養うプログラムを作成する予定である。

### 実践科学研究と自然・人文・社会科学の融合

プレーヤーや指導者のスポーツに対する経験や勘は非常に貴重なものであり、これらの情報を科学的観点から公表することは体育学・スポーツ科学の領域に携わる者の役割でもあろう。つまり、スポーツ現場の経験や勘を扱う学問をスポーツ科学の領域としても確立する必要がある。これまでの体育・スポーツ科学の領域では、自然・人文・社会のそれぞれの研究手法を中心にスポーツを分析統合する方法が一般的に取られ、これまでの研究誌にも事例研究や実践研究の掲載例が存在するものの、その数は非常に少ない。今後は、スポーツ現場における多くの個々の事例を対象として多くの実践事例研究を後世に残す必要がある。

実践事例研究を体系的に集積されることによりスポーツ実践の現状が明らかになり、そこから、従来の自然・人文・社会の手法を用いた研究のアイデアが実現し、人のスポーツ実施の全般を網羅する科学（スポーツ科学）の体系が出来上がると思う。